

# 神奈川県気候変動適応センター 事例紹介

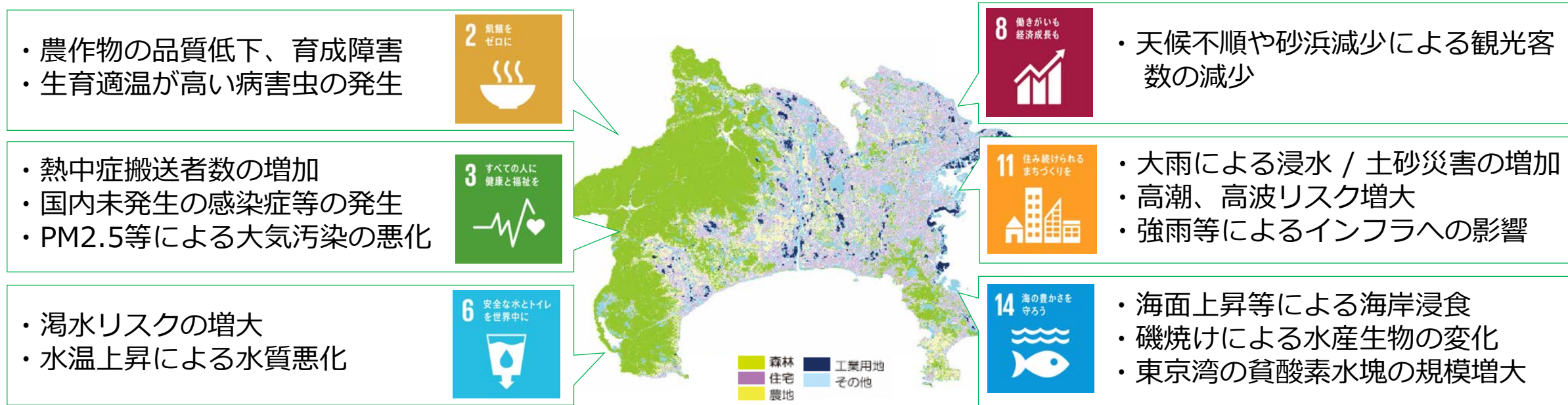
発表者氏名

田澤 慧

# ①県の特徴

神奈川は、海・山・川・都市・観光地・農地とあらゆる側面を持つ  
⇒国内で想定される気候変動の影響の多くを受けるおそれあり！

例えば...



また、3つの政令指定都市を抱えている

## ②適応センター設置の経緯

### 【設置に向けて実施したこと等】

本県では、ボトムアップで適応センターの設置検討を開始した。

- 環境省、国環研、先進自治体、学識者等への適応センター具体的業務に関するヒアリング
- 庁内関係課への周知や気候変動への取組に関するヒアリング等
- 取組内容の検討、予算及び人員の調整、議会への報告 など

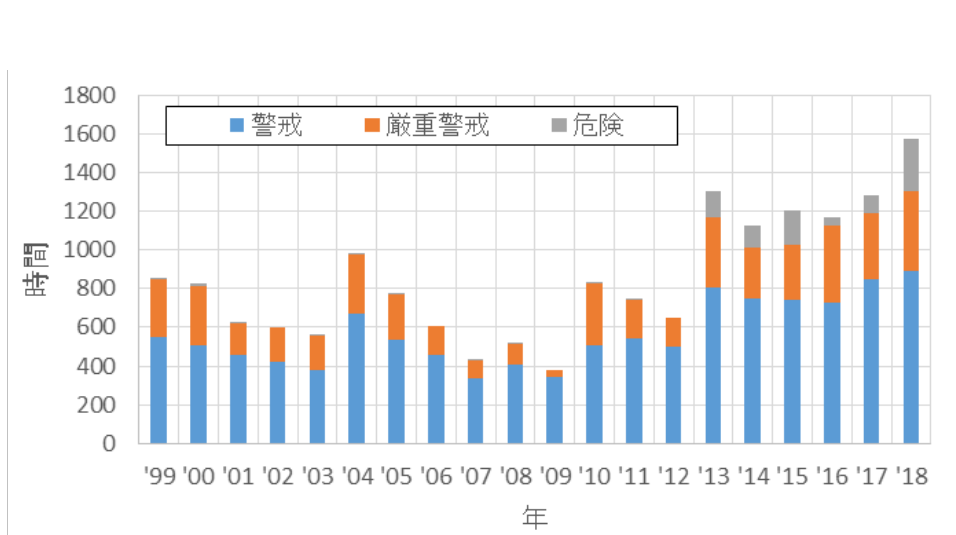
### 【設置根拠（条例、要綱、計画等）】

- 神奈川県行政組織規則において、神奈川県環境科学センターの事務分掌に下記業務を新たに追加  
「気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析、提供等に関すること。」
- 神奈川県地球温暖化対策計画（適応法に基づく地域気候変動適応計画）の次回見直しでは、適応センターの記載を追加予定。

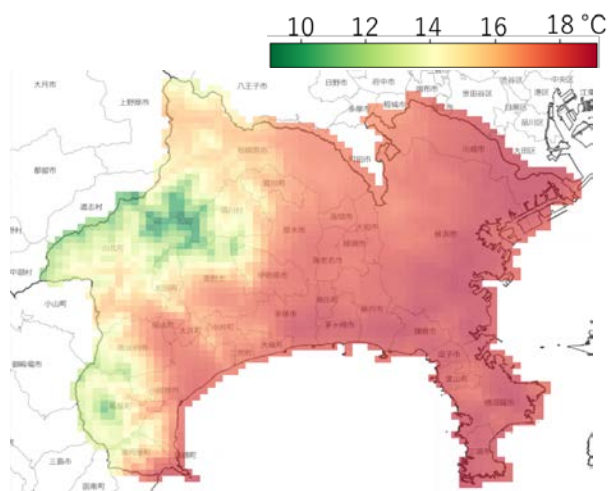
# ③これまでの取組み、今後の取組み

## ○気象情報や過去の災害に関する情報の収集・整理

- 気象データ（気象庁、県独自の観測データ）等の収集・整理
- 県内台風（15号、19号等）被害等の収集・整理
- 将来気候予測データの収集  
（農研機構メッシュ農業気象データ）



推計暑さ指数(WBGT)の経年変化



2050年頃の平均気温メッシュデータ  
（農研機構メッシュ農業気象データ）

令和元年 10月 31日

**令和元年台風19号の概要と県内被害状況**

令和元年10月12日に神奈川県を通過した台風19号における、県内の被害状況は次の通りです。

○ 台風概要

名称	令和元年台風19号 (ハギビス)
発生期間	R1.10/6~10/13
最低中心気圧	916hPa
最大風速	65m/s
上陸場所	静岡県伊豆半島
上陸日時	R1.10/12 19時前
上陸時中心気圧	956hPa

気象状況	日降水量	箱根	922.6mm	全国歴代1位
	1時間降水量	相模湖	68.6mm	歴代1位
	最大瞬間風速	横浜	43.8m/s	歴代3位
	最高潮位	小田原	172cm	歴代1位

(出典:気象庁 令和元年台風第19号等に関する被害状況等について)

○ 県内被害状況 (10月28日現在)

<人的被害>

死者	行方不明者	負傷者
7人	2人	2人

(重傷) 1人 (軽傷) 37人

<住家被害>

家屋全壊	家屋半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
41棟	70棟	699棟	37棟	116棟

詳しい被害状況については、「神奈川県災害情報ポータル」でご確認ください。  
(ホームページアドレス <https://www.bousai.pref.kanagawa.jp/>)

○ 施設等被害状況

○小田原漁港  
高潮による堤防の一部破損

【神奈川県気象観測センター】



日傘や打ち水の効果の  
サーモカメラでの観察

## ○普及啓発関係

- 出前講座での講演
- 民間事業者向けセミナーや県民向け講座等の開催・講演
- 環境科学センター施設公開（8月）での暑熱対策の紹介

## ○「神奈川県気候変動適応に関する有識者等検討会議」への参加

## ○文献情報の収集整理

## 【今後の取組（予定）】

- 市町村や庁内関係課等のニーズや専門家ヒアリングの実施
- 効果的な情報発信・普及啓発方法（e-learning等）の検討
- 暑熱への適応策（熱中症注意喚起情報の提供等）の検討 など

将来的には、県民・事業者の生命と財産を守るという観点で、  
気候変動影響及び適応に関する情報発信をさらに充実していくとともに、  
県独自の影響予測が実施できる体制を整えていく

## ⑤適応センターの設置のメリット 及び運営等での課題

### 【メリット】

- 適応センター専任職員が配置され、業務として、正式に位置づいた。
- 外部（他部局も含む）との調整等の場面で、自分たちの立場を説明しやすくなった。

### 【運営等での課題】

- 神奈川県として、優先して取り組むべき分野がまだ明確化できていないこと。
- 県民・事業者・行政関係者にとって有用な情報とは何かを把握すること、また、そのような情報を収集する方法
- 庁内・庁外の関係者の連携・協力なしに、適応策を立案・実行できないので、「使ってもらえる情報」を提供していくこと。